

## 第 1 回持続可能な社会・成長する農林水産づくり部会 (R4. 11. 30) における主な意見

### <農業>

- ・担い手の確保が課題。新規就農者は所得確保が見通せないなので、支援措置が必要。
- ・担い手確保に向けて、高校や大学と連携して、生徒・学生の就業を促し、奨学金制度など定着させるような仕組みづくりに取り組んでほしい。
- ・グリーンイノベーションに向けて、県内大学の連携や専門大学院の設置などにより、人材の育成や仕組みづくりが必要。
- ・若い人材の確保や収益向上のため、農林水産業においてもドローンの活用などのデジタル化を進めるべき。
- ・石川県の農業産出額は 500 億円程度。東北の各県は、米が中心で降雪もあり、石川県と条件は類似しているが、産出額は 1000 億円程度。何が違うのか。
- ・第 1 次産業は国策による部分も大きく、設備投資には行政からの支援が必要。
- ・石川県の農業は、半分は米で、4分の 1 は園芸作物であり、そこを改善しないと、農業産出額は上がらない。
- ・生産者には価格決定権がないため、所得の確保を難しくしている。一般的な園芸作物を栽培して、どのように所得をあげていくかが課題。
- ・資源高騰や米価低迷で経営環境が悪化、中山間地は耕作放棄地が増加。若者に魅力ある産業にするためにゲームチェンジが必要。
- ・県産農林水産物を丸ごと食べる県民総動員の仕組みづくりや、県内の農産物の自給率を設定してはどうか。
- ・江戸時代の農学書には、米を多く収穫するには、農業用水に家庭下水が入っている方がよいと記載してあるが、現在は農業用水の有機物が減っている。江戸時代の知見も一次産業に生かしていくべき。
- ・日本海の水や空気など石川県の環境はきれいになっているので、研究機関と連携して、こうした情報を発信し、農林水産物のブランド化や消費拡大につなげてほしい。
- ・農業についても、DX を活用して、二酸化炭素を削減するカーボンマネージメントに取り組んでほしい。

### <林業>

- ・林業の一番の課題は担い手の確保。就業しても長続きせず、担い手の確保につながらないのが現状。
- ・10年後の県産材供給量30万<sup>m</sup>3を目指して、県と連携を密にして取り組んでいきたい。
- ・大径木利用を今後どうしていくのか、川上と川中が協力して取り組んでいきたい。
- ・CLTの活用、体育館・工場・ビルの木造化、新素材の開発など木材産業として、住宅以外に木材の利用拡大が必要。

- ・ 県産材の安定供給のための人材確保や製材施設等の整備とあわせ、製材くずを活用したバイオマス発電など、資源を有効活用する取り組みを進めるべき。

#### <水産>

- ・ 担い手の確保が課題。日本人は船酔いに耐えられず辞めていく。
- ・ 持続可能な漁業経営に向けて、環境に配慮しながら老朽化した漁港施設の整備が必要。

#### <環境>

- ・ 自然・歴史・文化・伝統などの特徴を生かし、それらと共存したカーボンニュートラルを目指すべき。そのためにもDXを活用したカーボンマネジメントの取組を進めることが必要。
- ・ 新しく造成される住宅団地について、自然エネルギーの導入やカーボンマネジメントの取組みを義務化していくような方向も考えられるのではないか。
- ・ 都市の廃棄物、産業の廃棄物、農業の稲わら、下水汚泥など、多様な主体が連携することによって、資源が循環し、環境負荷軽減につながる取組を行ってほしい。
- ・ 薬のプラスチック容器の回収・処理の仕組みを整備してはどうか。